

2014 2.18 第3回 被災地図書館との情報交換会

本交換会の課題 ー東日本大震災3年と「記憶の継承」ー

神戸大学大学院人文学研究科 奥村 弘

○東日本大震災3年

「記憶の継承」＝「文化」に関わる機関や団体の基本的な役割が具体的に問われる時期
「分限」を超えて 国会図書館が記憶継承の中核にすわったのか？

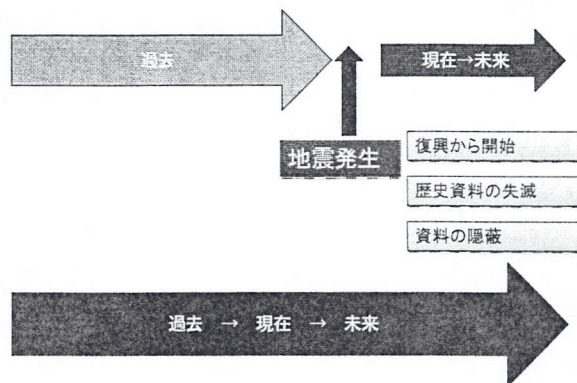
○震災遺構の保存問題 → 今神戸でどうなっているのか？

神戸市「阪神・淡路大震災企画展」H26 1月 杉本和夫氏の調査から
市内にはほとんど遺構は残っておらず、残っている遺構も積極的に活用されているとはいえないものも多い。 ※東日本大震災のインパクトによる記憶継承の活性化

○阪神淡路大震災時の問いと未解決の課題

被災歴史資料保全と震災資料保存を両輪とすることで「記憶の継承」を図る

●地域の記憶の災害による切断



大震災発生から復興という過程を、地域の歴史と文化から切り離さないことの重要性

※神戸市東灘区住吉地区での聞き取り

避難所運営の基礎 空襲・近世以来の水路・だんじり（祭礼）

※「大きな地震は、もうけーへん」という感覚 昨年4月13日 淡路震度6弱

○「地域の総合的な記憶」＝「地域の歴史」の一部としての大災害の記憶の継承

そのために必要なことは何なのかという問い→「分限」を超えて

保存活用機関のあり方、活用のための研究のあり方、市民的な活用のあり方

○大震災を通して「文化」のあらたな「かたち」を生み出していく時期？

その中で図書館はどのように変化していくのか